

考古学研究室報告

第38集

- I ナガラ原東貝塚5
 - II 河原第3遺跡2
 - III 高熊2号墳測量調査報告
- 2002年度考古学研究室の足跡

2003

熊本大学文学部考古学研究室

序 文

石器埋納事件以降、発掘調査と考古学者は世間ですっかり信用をなくしてしまった感がある。だが、遺跡はそんなこととはもちろん無関係に、古代人の息遣いを地中から伝えてくれる。

夏の旧石器時代の調査は快調だった。阿蘇谷を東北に望む外輪山の河原第3遺跡では、2万5千年から1万5千年前に至る時期の細石器がまとまって800点以上みつかった。フィールドマスターの宮本千恵子さん（修士1年）らによる、意気盛んな報文をご覧いただきたい。

春と夏には、熊本県植木町の高熊古墳や高熊2号墳の測量調査をおこなった。この一帯には埴輪をのこす前方後円墳や、甲冑をもつ円墳が分布している。熊本県の首長系譜を追究しようとする杉井助教授の研究グループにとって、今後よいフィールドになるだろう。調査では竹中克繁君（修士2年）たちがきれいな図面を仕上げてくれた。

画期的だったのは、甲元教授、小畑助教授が中心となってロシア沿海州のクロノフカ遺跡の調査を開始したことである。これは三菱財団の研究助成金による調査で、ロシア科学アカデミー極東支部との共同調査である。呉判錫君（修士2年）も参加して、新石器時代の住居跡からキビとアワをみつけた。

そしてショックだったのが、ナガラ原東貝塚（沖縄県伊江島）で、地下80cmの包含層から検出したイネが、AMS（加速器質量分析）法による¹⁴C年代測定の結果、現代イネと判明したことである。土中に斑文が見えず、また考古学的に攪乱はなくても、土壌は多くの要因で攪乱されていることを、遺跡からきっちり教えられた思いである。おおいに反省して大学院生と土壌学の勉強を始め、この方面の知識の重要なことを認識した。檀佳克君（修士1年）のリーダーシップのもとに、ナガラ原東貝塚報文ではこれまでの成果をまとめることができた。

ところで、今年大学の夏季休業期間が8月、9月になったことから、今後琉球列島の調査をこれまでのように7月に実施することが困難になった。この時期は琉球列島の台風シーズンだからである。2003年からは、調査の主力を熊本県内の古墳調査に移し、琉球列島の調査は夏以外の時期に規模を縮小して実施することになるだろう。

昨年10月、ナガラ原東貝塚の地主のお一人である玉城恵一さんが逝去された。私たちの調査を始終暖かく見守り、励ましてくださった方であった。ご冥福をお祈りしたい。

2003年2月
木下 尚子

— 表紙写真 —

伊江島より本部半島をのぞむ

I ナガラ原東貝塚5

例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地所在のナガラ原東貝塚の発掘調査報告である。
- 発掘は実習調査として研究室が起案し、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施された。
- 調査は2002年8月4日から8月15日までの12日間実施した。
- 調査参加者・整理作業者は以下の通りである。
 - 甲元真之 木下尚子 杉井健 小畑弘己（以上教官）
 - 新里亮人（以上大学院博士1年生）
 - 荒木隆宏 檀佳克 橋口剛士 宮本千恵子（以上大学院修士1年生）
 - 江頭俊介 芝康次郎（以上学部4年生）
 - 上野平優紀 中里陽道 中田伸一 仲矢咲紀 前田知聖 村上彩 望月大輔 森幸一郎
 - 安元香名美（以上学部3年生）
 - 青山陽介 壺岐尾可奈子 沖謙介 神川めぐみ 児玉幹 齋藤伸太郎 三宮慶太 末永浩平 高橋直人
 - 八郷美美 麓晃 前田真由子 松ヶ野恵（以上学部2年生）
 - 石丸恵利子 久保山啓成（以上京都大学大学院）
 - 緑川弥生（旧姓名島、慶応義塾大学大学院）
- 脊椎動物、軟体動物、植物遺体の鑑定、分析については順に早稲田大学樋泉岳二、千葉県立中央博物館黒住耐二、札幌大学高宮広土の各先生にお願いした。前田知聖担当の魚骨の鑑定指導は早稲田大学樋泉岳二先生に、動物骨の鑑定は京都大学大学院石丸恵利子氏にお願いした。
- 石器・貝製品の報告に関して、人為的要因によるものには「擦れ」、人為的要因によるものか風化によるものか判断できなかったものに関しては「なれ」と表現している。
- 石材および土器胎土中に含まれる鉱物の鑑定は元熊本大学理学部教授松本幡郎先生にお願いした。
- 調査期間中、以下の方々にご協力いただいた。
 - 安里誠夫 岸本義彦 島袋裕次 玉城恵一（敬称略）
- 本編におけるレベル高はすべて海拔をあらわし、方位は真北をあらわす。
- 本編の挿図と図版の遺物番号は対応する。
- 本編の編集は檀が行い、執筆分担については執筆者名を各文末に示した。

本文目次

一 位置と環境	1
二 調査の経過	2
三 調査の成果	4
1. 層序	4
2. 遺構	4
3. 遺物の出土状況	7
4. 貝塚の形成	9
5. 出土遺物	11
(1) 土器	11
(2) 石器	19
(3) 貝製品	22
(4) 自然遺物	28
四 自然科学的分析	38
1. 貝塚における陸産貝類堆積過程を中心に — 2002年度ナガラ原東貝塚発掘調査 —	38
2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体 (第5報)	44
3. ナガラ原東貝塚出土の植物遺体 (2002年度)	49
付. 遺物包含層における現代イネ混入の検討	55
五 まとめ	63

挿図目次

第1図 伊江島の遺跡分布図	1
第2図 遺跡周辺地形図および調査区位置図	2
第3図 調査区配置図	3
第4図 土壌サンプル採取地点	3
第5図 土層断面図	5
第6図 遺構配置図および断面図	6
第7図 接合した土器片同士の距離	7
第8図 遺物出土地点平面図および垂直分布図	8
第9図 IV下層の貝殻出土位置図	10
第10図 出土土器実測図 (1)	13
第11図 出土土器実測図 (2)	14
第12図 後期遺跡出土土器の底部形態の変化および口縁部施文の有無	17
第13図 口唇部分類図	17
第14図 出土石器実測図 (1)	20
第15図 出土石器実測図 (2)	21
第16図 有孔貝製品重量分布	22
第17図 ナガラ原東貝塚出土皿状貝製品容量分布	22
第18図 出土貝製品実測図 (1)	23
第19図 出土貝製品実測図 (2)	24

第20図	貝輪加工部位	25
第21図	出土貝類の組成	28
第22図	出土貝類の生息地	28
第23図	シャコガイ科殻長比較	30
第24図	ナガラ原東貝塚殻長組成	30
第25図	ブダイ科前上顎骨タイプ別模式図	36
第26図	¹⁴ C 試料採取地区・関連土層図	60
第27図	西トレンチ北壁土層図	60
第28図	グリッド別採取土壌量・種子・イネ・堅果類出土数の比較	61
第29図	層位別採取土壌量・種子・イネ・堅果類出土数の比較	61
第30図	グリッド別種子・イネ・堅果類出土頻度(個/リットル)	61
第31図	層位別種子・イネ・堅果類出土頻度(個/リットル)	62

表目次

第1表	土壌サンプル採取状況一覧	3
第2表	土器分類・集計表	12
第3表	出土土器観察表	15
第4表	後期遺跡出土土器の文様要素と口唇部形態の変化動向	17
第5表	石器計測値一覧	21
第6表	IV下層出土石器と石材	21
第7表	IV/V層出土石器と石材	21
第8表	有孔貝製品計測値一覧表	25
第9表	皿状貝製品計測値一覧表	26
第10表	貝類遺体集計表	29
第11表	出土動物名および重量・骨片数	31
第12表	獣骨の計測値および出土位置一覧表	32-33
第13表	魚骨の計測値および出土位置一覧表	34-36
第14表	ナガラ原東貝塚Iノシシ層位別最小個体数	37
第15表	2002年の調査でナガラ原東貝塚から得られた貝類遺体	41-43
第16表	ナガラ原東貝塚から得られた貝類遺体の1000ccあたりの最小推定個体数組成	43
第17表	ナガラ原東貝塚2002年度調査で採取した脊椎動物遺体分析用試料	46
第18表	ナガラ原東貝塚2002年度脊椎動物遺体分析用試料の構成要素	46
第19表	ナガラ原東貝塚2002年度採取試料における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と焼骨率	46
第20表	ナガラ原東貝塚1998~2002年度採取試料における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と焼骨率	47
第21表	ナガラ原東貝塚2002年度 TT02A サンプル(V層)より検出された脊椎動物遺体	47-48
第22表	ナガラ原東貝塚2002年度 TT02B サンプル(VII層)より検出された脊椎動物遺体	48
第23表	炭素14年代に用いられたイネ穎果	49
第24表	ナガラ原東貝塚におけるイネの出土地点、出土層、および出土数	51
第25表	各調査区から得られた植物遺体	53-54
第26表	今年度調査で出土した植物遺体	54

第27表	ナガラ原東貝塚出土種子	60
第28表	IV/V層における放射性炭素年代測定結果	64

図版目次

図版 1 上	調査前遺跡近景	図版 5 上	石器
中	調査区復元状況	中・下	貝製品 (1)
下	北 2 西 1 グリッド IV 下層 貝類検出状況	図版 6	貝製品 (2)
図版 2 上	北 1 西 1 グリッド 遺構検出状況	図版 7 上	貝類遺体 (1)
中	調査終了時遺跡近景	中	シャコガイ合弁状況
下	現場説明会風景	下	貝類遺体 (2)
図版 3	土器 (1)	図版 8 上	貝類遺体 (3)
図版 4	土器 (2)	中	脊椎動物遺体 (1) 魚骨
		下	脊椎動物遺体 (2) イノシシ骨